

英国病理学会 (Ghent Pathology 2025) 派遣報告書

福島県立医科大学 医学部 基礎病理学講座 小林 信

2025 年 6 月 24 日～26 日の 3 日間、ベルギー王国で開催されました Ghent Pathology 2025 に参加させていただきましたので報告いたします。今回の学会は英国病理学会とベルギー病理学会の共催で、ベルギーの首都ブリュッセルから電車で 30 分ほどの Ghent にある国際会議場で開催されました。蒸し暑い福島市とは異なり、涼しく過ごしやすい気候で青空のもとでの学会参加となりました。学会会期の 3 日間は Welcome drink dinner、Conference dinner、Committee dinner と各日のディナーにもご招待をいただきました。英国病理学会・ベルギー病理学会の committee メンバーの先生方との会食を通して親睦を深めることができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。

今回の英国病理学会派遣におきましては小無田美菜先生のご紹介のもと、6 月 24 日には Leuven にある KU Leuven 大学、6 月 25 日には Ghent の Sint-Lucas 病院をそれぞれ訪問させていただきました。KU Leuven 大学では病院病理部及び Olivier Govaere 先生が主催する研究室を見学いたしました。病院病理部においては高度に効率化された設備とスタッフの方のチームワークにより一日に数千枚の標本をさばいておられました。また研究所の Olivier Govaere 先生の研究室には 3 名の学生がおられまして、各学生はまず研究室の柱となる大きなプロジェクトを任され、並行して各自が主体となったプロジェクトを進めるスタイルで研究しておられました。私たちのために研究紹介の時間を確保していただき、最新鋭の設備や質の高いサンプルを使った興味深い研究をいくつもお紹介いただきました。各人が取り組むテーマに前向きに、自分で考えながら研究を遂行する姿に私も感銘を受けながらプレゼンを拝聴しました。

Ghent Pathology に話を戻しますと、本学会の会期は 3 日間、Ghent St. Pieters 駅から徒歩 10 分の国際会議場での開催でした。基調講演、教育講演、一般口演、ポスター発表など日本病理学会総会と同様に多岐にわたる発表があり、会場は 7 部屋、一般口演は臓器別プログラムとなっておりました。私は 6 月 26 日午前 10 時 30 分から開催されました Oral free presentation セッションにおいて、神戸大学の神保直江先生に続いて発表しました。発表時間 10 分間、質疑応答 5 分間です。日本の多くの学会とは異なり厳密に時間計測がされず、発表の時間配分は各人に委ねられておりました。私の発表テーマは「Cell surface proteomics identifies SPON1 as a novel prognostic marker and therapeutic target in ovarian cancer」でして、これはタンパク質の網

羅的解析に基づく卵巣癌の新規予後マーカー・治療標的分子を同定する研究です。発表の際は専門外の先生にも伝わるようなるべく簡潔な説明を心掛けて発表を致しました。私以外ほとんどの参加者は病理医の先生方であったことからどこまで研究が伝わるかととても不安でありましたが、発表後の質疑では本会議 Meeting Secretary の Mohammad Ilyas 先生と座長の Meng-Lay Lin 先生からそれぞれ質問をいただき、発表後にも複数の先生から研究手法や詳細について質問をいただきました。今までに受けたことのない踏み込んだ質問もいただき、新しい研究のアイデアとなる意見交換もすることができました。

最後になりますが、英国病理学会への派遣をご選考いただきました日本病理学会国際交流委員会の先生方、関係各委員会の先生方、日本病理学会事務局の皆様にご礼申し上げます。また通常の学会参加ではできない特別な経験として KU Leuven 大学や Sint-Lucas 病院へのツアーをご企画いただきました小無田美菜先生、現地で分からないことや困ったことについて親身に相談に乗っていただきました神保直江先生に心から感謝いたします。



(左上) Ghent の街並み、(左下) Conference dinner での一枚。(右上) KU Leuven 大学の研究室にて Olivier Govaere 先生、小無田先生、神保先生と筆者。(右下) 一般口演で質問に答える筆者。